

質問者



松本一二美 議員

Q

青色パトの取り組み推進を

A

夏休みまでに「松前町青パト隊」が誕生！

問

青パトとは、青色回転灯を装備した自動車による自主防犯パトロールのこと。警察車両は赤色の回転灯ですが、赤色が青色に変わったもので青パトは、見せる防犯になる。

子どもたちの被害は登下校中に限らず、その後の時間帯が多いのが現状。校区を越えて、町全体が一つになっての青パト見守り隊の活躍に期待するが、青パトの取り組み推進の考えは。

答

白石町長

松前小学校PTAがいち早く取り組みをし、現在スクールガードまさきとして、青色回転灯をつけた車17台で日夜地域安全のための自主防犯パトロールを実施していただいています。

取り組みの成果として松前校区の青少年による犯罪被害も減少していると警察から聞いています。他校区においても、補



青パト隊

問

街灯設置と区長の関係は

導委員が中心になって、北伊予校区16名、岡田校区6名が講習を受け申請中で、これにより、校区ごとに青パト隊が誕生し、まさに見せる防犯活動を推進することになります。これを機会にして校区の垣根を越えて、松前町全体として活動ができるように「松前町青パト隊」として夏休みまでに統一した組織ができると聞いています。

答

区長の負担了承諾が必要

白石町長

街灯設置基準は設けていません。町内街灯数はおよそ1,700件一灯当たり年間2,700円です。電気代は地元負担です。住民の方から要望があったときにも一応区長に負担の了解を頂いて設置しています。

町から統括広報委員として委嘱し、広報の配布等をしていただくことで手当てを出しています。

問

松前駅のバリアフリー化早期推進を

設置要望場所は担当課が現地を見て区長に紹介し、最終的な設置は区長の判断によります。

大型商業施設に伴い古泉駅のバリアフリー化が伊予鉄との共同により推進される。

住民の利便性と要望度から、松前駅も同時にバリアフリー化すべきではないか。お考えは。

答

働きかけをします

白石町長

公共施設のバリアフリー化は促進すべきと考えます。一義的には鉄道事業者が決めることだと思えます。

松前駅についても、伊予鉄道との話し合いのなかで、働きかけをしています。

問

マタニティマーク活用と配布を

周囲から理解されにくい妊産婦には、辛い経験があるとの声が多い。

マタニティマーク携帯で、外部から認識されやすく配慮が期待される全国統一のマタニティマーク活用と、母子手帳交付時に配布の考えは。

答

希望者に無料配布

栗田副町長

庁舎などにポスターの掲示や、母子手帳交付時に、チラシの配布等をしていきます。

保健センター窓口で希望される妊産婦の方には、マタニティマークのストラップやシールを無料で配布し「妊産婦にやさしい環境づくり」に努めていきます。



マタニティマーク